

総合所見

今年度は環境基本計画が改定作業中であるため、「環境基本計画目標達成状況監査」は実施せず、「取り組み状況監査」のみ実施しました。昨年度に引き続き、設問ごとの評価は監査を担当した班の決定によるものとしましたが、他班の結果発表を受けて評価を変更したケースもあり、全体として最終的な評価はほぼ同一のレベルで決定できたと思います。△や×の評価となった職場・項目はひとつもなく、良好な取り組み状況が確認できました。また、PCB廃棄物の処理について初めて監査項目に加えましたが、該当する所属では法令の適用についてきちんと認識されていることが確認できました。

今年度の監査では、特に省エネルギーに関する取り組みと廃棄物の削減・リサイクルに関する取り組みを重点的に確認しました。独自の環境配慮・環境施策として省エネルギーや廃棄物削減に取り組む職場が多くありますが、業務の特性や職場・施設の状況をよく捉え、これを反映した取り組みが数多く見られました。例えば、効率的な収集ルートを検討することでガソリン消費量の削減を実現している環境クリーンセンターや、情報セキュリティを考慮しながらごみ削減や節電を図る収納管理課と国保年金課の取り組み等がこれに当たります。また、外部の事業者の協力やノウハウの提供を受けるなどして、業務の改善やごみ削減に取り組んでいる例も見られました。本来業務の改善と環境負荷削減が一体となっており、環境マネジメントの本来あるべき姿に近づいている様子が見受けられます。

その一方で、取り組みを数値目標化して管理する動きには、いま一步進展が望まれます。多くの所属では、独自の環境配慮・環境施策について「～に取り組む」といった行動目標を掲げていますが、これを数値目標に置き換えることを意識してはいかがでしょうか。目標を具体的に設定し、その達成状況を把握・評価することで、より効果的な活動に発展することが期待できます。一部の所属では、取り組みの結果を記録して共有することで取り組み成果が上がっていることが確認できたとの報告も聞かれました。所属ごとのPDCAサイクルを確立し、マネジメントが習慣化されることで、本来業務の改善にもつながるのではないのでしょうか。

今回、優良事例として評価された項目の多くは独自の取り組みとはいえ、他の所属でもすぐに応用可能な工夫も数多くあります。監査報告書に掲載した「◎」や「良」の所見を参考に、優れた取り組みを水平展開していただけることを期待します。